

## 宇宙線強度変動 2. 太陽活動・地磁気変化の役割

## Variation of Cosmic Ray Intensity, 2. Roles of solar-activity and geomagnetic-field changes

# 寺沢 敏夫 [1]; 浅野 勝晃 [2]

# Toshio Terasawa[1]; Katsuaki Asano[2]

[1] 東工大・理・流動機構/物理学専攻; [2] 東工大・理工・流動

[1] Dept. Phys., Tokyo Tech.; [2] IRCS, Tokyo Tech.

太陽活動が地球の気候に影響を与える可能性について多くの議論がなされてきた。

たとえば、17世紀末から18世紀初頭の太陽活動マウンダー極小期と小氷河期の一致は有名である。

しかしその一致を説明するための物理過程は依然として未解明であり、宇宙線強度変化が雲量をコントロールするという Svensmark 説は大変興味深い。もし彼の説が正しければ、太陽活動が気候に影響を与える確かなルートが確立されたことになるからである。本講演では、宇宙線強度変動を与える諸プロセスのうち、物理過程の解明されている

太陽風変調効果

地磁気による遮蔽効果

の部分について研究の現状をまとめ、残された問題点を整理したい。なお、星間空間における宇宙線強度自体が変化する可能性については関連講演(浅野、寺沢)において検討することとした。